

<情報ファイル>

藤田 巖 (外部寄稿)

高齢者の最近のおしゃれ事情～髪のカートは心のカート、訪問理美容が
“老いても美しく”をサポートします

一人で外出が困難になったり、要介護状態になったため、理美容院に行くことが難しくなった……。でも、髪は容赦なく伸びてくるので、何もしないわけにはいかない。かといって、家族はうまくカット出来ない……。そんな時に活用したいのが訪問ヘアサロンサービスです。

訪問ヘアサロンサービスとは？

訪問ヘアサロンサービスは「利用したい」と思ったからといって、誰もが利用出来るわけではありません。病気やその他の事情で外出が無理、又病院に入院中や社会福祉施設等に入所している方など、理美容室へ行けない方、通うのが困難な方を対象に、理美容師が訪問してカット等の施術を行うサービスです。（理容師法、美容師法）

理美容と介護のプロが行うので安心

訪問ヘアサロンサービスは、基本的にはどの理美容師でも行うことが可能です。しかし、たとえ理美容の技術が高くても、要介護者との関わり方は介助のノウハウがない人に対しては、安心して任せられるかが心配というのが、家族側としての本音でしょう。そうした不安を与えないため、ホームヘルパー2級の資格を取得している理美容師も多く、介護福祉の基本知識も兼ね備えた「福祉理美容師」の人数が増えています。介護の基礎を学んだ理美容師であれば、車椅子への移乗といった誘導などもでき、利用者に安心してもらえると同時に、その介護者である家族の負担も楽になります。

要介護状態となった人へのヘアカットは、家族がされるケースが多いと思います。しかし、それは見栄えを良くする程度なので、本人が喜びを感じるまでには至りません。でも、プロの理美容師による本格的なサービスを利用すると、キレイになった自分を実感でき、生き生きとした表情になったり、前向きな気持になることが出来ます。又、自宅にこもりがちな高齢者・介護者・にとって、訪問理美容師は、良き話し相手・相談者となり孤独感の解消にもつながります。

身だしなみを整えることで生まれる生活のエネルギー

社会生活を営む上で、ヘアスタイルをはじめとした身だしなみ等を整えることはとても大切です。年齢を重ね、介護が必要な状態となると、どうしても理美容などへの配慮は後回しにされがちです。しかし、おしゃれが嫌いという方はあまりいないはずです。たとえ要介護状態となっても、多くの人が「いつまでも美しく生きていきたい」という願いをもっていると思います。

訪問ヘアサロンサービスとは、こうしたニーズを実現する為に行われているものです。キレイになることで人前に入る意欲が湧き、気持ちも前向きになる。本人にとっても生きる喜び、活力へとつながります。

訪問ヘアサロンサービスを利用するには？

(1) 地域の理容室、美容室に直接問い合わせる。

自宅の近くにある理美容室、あるいはこれまで通っていた理美容室に問い合わせます。訪問サービスを行っている理美容室であれば、そこで利用できます。

(2) 介護サービス事業所に問い合わせる

現在、ホームヘルプサービスやデイサービスなどを利用している場合なら、その事業所に相談してみるのも一つの方法です。訪問サービスを行っている理美容室と提携している事業所もありますので、そうした理美容室を紹介してもらえましょう。

(3) サービスを実施しているLLP又はNPO法人等に問い合わせる

全国には訪問ヘアサロンサービスを行っているLLPやNPO団体があります。お住まいの地域にこうした団体があれば利用することが出来ます。インターネットから探すこともよい方法です。

参考：「LLP全国訪問理美容協会」

東京都世田谷区用賀4-34-12-305 TEL: 0120-4347-21

検索サイト「自宅訪問ヘアカット」 <http://houmoncut.com/>

(4) 役所の福祉課に問い合わせる

訪問ヘアサロンは介護保険外のサービスですが、市区町村によっては、これにかかる費用の助成を行なっているところがあります。（横浜市の場合は：介護度4又は5の方で、本人負担2000円）。福祉窓口では、助成を受ける方法及び利用出来る理美容室を紹介してくれます。

(5) 料金はいくらくらい？

ヘアカット代：3000～4000円位。料金設定は各理美容室がその地域の相場
で決めています。概ねサロンでの料金と同じです。その他の交通費がプラスされ
る場合がありますので、申込みの際に確認しておくといでしょう。

実は、こんな仕事を通して社会に少しでも恩返し出来たらとの思いで、会社（富士通）
を定年退職後、平成13年に「福祉美容師」となりました。10年経過の昨今、訪問ヘア
サロンサービスがやっと市民権を得ることが出来つつあります。本会報に寄稿させて頂い
たことをバネとしまして、私（70歳）も、生涯現役で、命の続く限り頑張っ参ります。



森 庸明（湘現会）

会報107号をお送り頂き御礼申します。湘現会メンバーが貴会の富岡製糸場見学に参
加した事を知りました。貴会の企業見学シリーズの企画はいつも感心して居ります。

「日日是口実」貴文で、「テン・トウ」は正に我等老年層の為になる指針です。私の妻
が5月5日に不注意から屋内転倒して大腿骨折で4ヶ月にわたりリハビリを体験しまし
た。再度転倒せぬよう心掛けて居る近頃です。自分の足で歩ける有難さを再認識して居
ります。老衰とは今まで「出来ていたことが、出来なくなる」ことです。精々人のお世話に
ならぬようをモットーに過ごして居ります。一言御礼まで一筆しました。

※「日日是口実」は

http://orange.zero.jp/hnw.boat/pdf/newmon/mon_2011_10_30.pdf

